

一般社団法人 国際歯科医療安全機構



第8回 学術大会・総会 プログラム

地域医療から取り組む医療安全の発展を目指して



会 期： 2024年1月21日（日） 9:30 ～ 17:00

場 所： 松本歯科大学 図書館2階学生ホール
及び Zoom Webinar によるハイブリッド開催

第8回 国際歯科医療安全機構総会・学術大会

大会長 栗原 祐史

松本歯科大学 歯学部 口腔顎顔面外科学講座 教授



医療法人



信州口腔外科 インプラントセンター

所長 北村 豊

(公社)日本口腔外科学会認定 口腔外科専門医・指導医
松本歯科大学病院 臨床教授



〒381-0201 長野県上高井郡小布施町林2249-1
TEL : 026-242-6888 FAX : 026-242-6188
E-mail : shinshu-osic@mbn.nifty.com
<https://www.sinshu-implant.com/>

第8回 国際歯科医療安全機構総会・学術大会

大会テーマ：

地域医療から取り組む医療安全の発展を目指して

この度の能登半島地震にて被災されたすべての方へ心よりお見舞い申し上げます。また、被災者の救済と被災地の復興支援のために尽力されている方々に深く敬意を表します。被災された皆様の安全と被災地の一日も早い復興をお祈り申し上げます。

さて、いよいよ第8回国際歯科医療安全機構総会・学術大会が2024年1月21日（日）松本歯科大学にて開催致します。本学術大会は「地域医療における医療安全」にフォーカスし、地域の歯科医療に従事されている皆様に対して、歯科臨床に関わる各診療科の先生や感染対策専門の看護師および歯科衛生士を講師にお迎えし、一般歯科診療における様々な分野から考える医療安全や感染対策について講演していただきます。さらに、地域歯科医療の中心である長野県歯科医師会からも専門家をお招きし、歯科医師会が取り組まれている医療安全対策についてご講演いただきます。また、基調講演では国際歯科医療安全機構の瀬戸皖一理事長にアジアにおける口腔がん治療の現状と将来展望について、ランチョンセミナーでは本学特任教授矢島安朝教授にインプラント治療におけるリスクマネジメントについてご講演いただきます。さらに、教育講演では本学耳鼻いんこう科教授相馬啓子先生に歯性感染症と耳鼻咽喉科疾患との関連についてご講演いただきます。

このように本学術大会は、歯科診療に関わるさまざまな分野の専門家が一堂に会して医療安全の発展を目指した講演を行います。このような機会はまたとないのではないかと考えます。わが国では現在、ポストコロナの時代となっておりますが、今なお学会などの開催にはさまざまな制約があります。そのため、本学術大会はハイブリッド形式での開催として準備をさせていただきますが、できるだけ多くの皆様に現地にご参集いただき、活発な議論を通して、これからの診療・研究にお役立ていただけるよう努めてまいりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

第8回 国際歯科医療安全機構総会・学術大会
大会長 栗原 祐史
(松本歯科大学口腔顎顔面外科学講座)

第8回学術大会・総会

第8回 国際歯科医療安全機構総会・学術大会を以下の要領にて開催いたします。「地域医療から取り組む医療安全の発展を目指して」をテーマに、大会長講演、企画講演、教育講演、特別講演(6テーマ)を予定しています。

また本学術大会は、

- ・ 歯科診療報酬（歯科点数表）の初診料の注1に係る施設基準の「院内感染防止に係る標準予防策および新興感染症に対する対策」、
- ・ 歯科外来診療環境体制加算1及び歯科外来診療環境体制加算2に関する施設基準の「偶発症に対する緊急時の対応、医療事故対策等の医療安全対策に係る研修」

に該当します。

セミナー終了後、修了証を発行します。

オンデマンド配信は2月末日まで行います。

第8回 国際歯科医療安全機構総会・学術大会

松本歯科大学 歯学部 口腔顎顔面外科学講座

大会長： 栗原 祐史 準備委員長：李 憲起

日時：2024年1月21日（日）9:30～17:00

形式：現地開催及びZoom Webinarによるオンライン開催
（ハイブリッド開催）

会場：【現地開催】松本歯科大学 図書館2階学生ホール
〒399-0781 塩尻市広丘郷原 1780

【オンライン】Zoom Webinar

参加費：歯科医師・医師 3,000円

歯科衛生士・歯科技工士・看護師 1,000円

学生 無料※

※学部学生、医療系学生、外国人留学生（大学院生を含む）

参加登録・方法：参加には事前登録が必要です。

参加登録期間：2023年3月1日（水）～2024年1月19日（金）

【問い合わせ先】

第8回 国際歯科医療安全機構総会・学術大会 運営事務局

北村 豊（一般社団法人国際歯科医療安全機構執行役員）

和泉逸平（一般社団法人国際歯科医療安全機構事務局）

〒143-0016 東京都大田区大森北 1-10-14 Luz 大森 8F

TEL：03-6459-4676 FAX：03-6459-4677 E-mail：ipizumi@gmail.com

目次

プログラム	3
●大会長講演	5
「松本歯科大学病院が取り組む感染制御の現状と対策」 栗原 祐史（松本歯科大学 口腔顎顔面外科学講座 教授）	
●企画講演	7
「アジアの口腔癌撲滅を目指して」 瀬戸 暁一（一般社団法人国際歯科医療安全機構 理事長）	
●教育講演	9
「歯性炎症により発症した耳鼻咽喉科疾患の臨床」 相馬 啓子（松本歯科大学病院 耳鼻いんこう科 教授）	
●特別講演①	11
「診療における放射線安全利用のために」 田口 明（松本歯科大学 歯科放射線学講座 教授）	
●特別講演②	13
「全身偶発症を防止するための歯科治療時の医療安全管理」 澁谷 徹（松本歯科大学病院 歯科麻酔科 教授）	
●特別講演③	15
「歯周病と全身疾患の関連性から安全歯科医療を考える」 吉成 伸夫（松本歯科大学 歯科保存学講座 教授）	
●特別講演④	17
「長野県歯科医師会の医療安全への取り組み」 清水 武（長野県歯科医師会 大門歯科クリニック）	
●特別講演⑤	19
「歯科衛生士が行う院内感染対策」 吉村 理恵（新百合ヶ丘総合病院 歯科衛生士）	
●特別講演⑥	21
「～医療安全としての感染管理活動～ コロナ禍を通じて見えてきた平素からの感染対策の重要性」 横山由香里（長野県立こども病院 感染管理室 看護師）	
●ランチョンセミナー	23
「社会的背景を考慮したインプラント治療のリスクマネジメント」 矢島 安朝（松本歯科大学銀座8丁目クリニック院長 教授）	

プログラム

◆ テーマ「地域医療から取り組む医療安全の発展を目指して」

9:30 開会あいさつ

栗原 祐史 (松本歯科大学 口腔顎顔面外科学講座 教授)
宇田川信之 (松本歯科大学 歯学部長)

9:40-10:10 大会長講演

「松本歯科大学病院が取り組む感染制御の現状と対策」
栗原 祐史 (松本歯科大学 口腔顎顔面外科学講座 教授)

10:10-10:40 特別講演①

「診療における放射線安全利用のために」
田口 明 (松本歯科大学 歯科放射線学講座 教授)

10:45-11:15 特別講演②

「全身偶発症を防止するための歯科治療時の医療安全管理」
澁谷 徹 (松本歯科大学病院 歯科麻酔科 教授)

11:15-11:45 特別講演③

「歯周病と全身疾患の関連性から安全歯科医療を考える」
吉成 伸夫 (松本歯科大学 歯科保存学講座 教授)

12:00-13:00 ランチョンセミナー

「社会的背景を考慮したインプラント治療のリスクマネジメント」
矢島 安朝 (松本歯科大学銀座8丁目クリニック院長 教授)

13:15-13:45 教育講演

「歯性炎症により発症した耳鼻咽喉科疾患の臨床」
相馬 啓子 (松本歯科大学病院 耳鼻いんこう科 教授)

13:45-14:15 特別講演④

「長野県歯科医師会の医療安全への取り組み」
清水 武 (長野県歯科医師会 大門歯科クリニック)

14:30-15:00 特別講演⑤

「歯科衛生士が行う院内感染対策」

吉村 理恵 （新百合ヶ丘総合病院 歯科衛生士）

15:00-15:30 特別講演⑥

「～医療安全としての感染管理活動～」

コロナ禍を通じて見えてきた平素からの感染対策の重要性」

横山由香里 （長野県立こども病院 感染管理室 看護師）

15:45-16:45 企画公演

「アジアの口腔癌撲滅を目指して」

瀬戸 暁一

（総合南東北病院口腔外科 口腔がん治療センター長）

（一般社団法人国際歯科医療安全機構 理事長）

17:05-17:20 次回予告・閉会式

会場地図



大会長講演

松本歯科大学病院が取り組む感染制御の 現状と対策

栗原 祐史

松本歯科大学 口腔顎顔面外科学講座 主任教授



ポストコロナの時代となり、政治・経済活動が再始動していますが、われわれが経験した COVID-19 のパンデミックは、医療現場での混乱をきたし、日本の感染症に対する脆弱性を浮き彫りにした。しかし、それを克服するべく、流行予測、検査・診断、新薬・ワクチンの開発など医療に大きな変化をもたらし、感染症の診断・治療に対する体制構築や感染症研究の推進が危機管理の一環としても非常に重要であることが再認識された。当院においても COVID-19 の感染拡大を受け、これまで以上に感染管理活動を行う中で、平素からの感染対策の徹底が院内の医療安全対策の柱の一つとして重要であることが周知されてきた。

COVID-19 の主な感染経路は飛沫とエアロゾルである。これまでの経路別感染予防策では粒子径をもとにした飛沫（粒子径 $5\mu\text{m}$ 以上）と飛沫核（ $1\mu\text{m}$ 以下）に分けられていたが、COVID-19 対策ではエアロゾル感染対策という新しい概念が加わった。すなわち「粒子径による区分」ではなく、「エアロゾルが発生する手技・場面」に着目した概念である。歯科医療はエアロゾル発生手技（aerosol generating procedure; AGP）が多く、日頃より AGP 対策としての標準予防策や口外バキュームの使用が行われてきた。しかしながら、感染対策の徹底には、対策を行う上で必要不可欠な PPE をはじめとする消耗品などの医療経費も増加の一途をたどり、これらの対策を行うことも病院を運営していく上で重要な位置づけを占めた。

そこで本講演では、松本歯科大学病院における COVID-19 に対するこれまでの感染の動向と行ってきた感染対策や支出改善に対するわれわれの取り組みについて供覧し、今後の院内感染予防の課題や対策について討議していきたいと考える。

■ ご略歴

- 2003年3月 昭和大学歯学部卒業
- 2003年4月 昭和大学歯学部第2口腔外科・医員
- 2007年4月 岡山大学消化器腫瘍外科学教室・研究員
- 2008年3月 昭和大学大学院歯学研究科修了（顎口腔疾患制御外科学専攻）
- 2008年4月 昭和大学歯学部顎口腔疾患制御外科学教室・助教
- 2013年4月 ベルギー AZ SintJan Hospital 頭蓋顎顔面外科 clinical fellow
- 2014年4月 昭和大学歯学部口腔外科学講座 顎顔面口腔外科学部門・助教
- 2017年10月 昭和大学歯学部口腔外科学講座 顎顔面口腔外科学部門・講師
- 2021年4月 松本歯科大学口腔顎顔面外科学講座・教授
- 2023年4月 昭和大学歯学部口腔外科学講座 顎顔面口腔外科学部門・客員教授

企画講演

アジアの口腔癌撲滅を目指して

瀬戸 皖一

国際歯科医療安全機構理事長

総合南東北病院口腔外科 口腔がん治療センター長

公益財団法人国際医療財団 会長

郡山市国際交流特使

総合南東北病院グループ顧問



インド口腔顎顔面外科学会 AOMSI から Lifetime Achievement 表彰したいとの比較的突然の招きに応じて11/23ニューデリーにて受章し講演した。演題は「インドのがん死亡患者の1/4が口腔がんであることが30年来変わっていないのはAOMSIとアジア口腔顎顔面外科学会の責任である」であった。翌日ムンバイのTATA Memorial Centreを訪れ、BNCTの導入について検討、さらに南東北+東京科学大+TMCによる次世代低侵襲口腔がん治療に関する共同研究を提案し、賛同を得た。翌日アーメダバードに飛び、クジャラート州立大学歯学部を訪問、日本の歯学部との連携促進を約束した。またその翌日ハイデラバードのContinental Hospitalを訪れ、ここでもBNCT導入の強い要望を受け、幾つかの課題を背負い込んで帰ることになった。

インドをはじめ南アジア一帯は口腔がん多発地帯として広く知られており、その原因はchewing habit+smokingとされているが、各国ともこの問題にまともに向き合っていない。口腔外科医による診断治療水準も一向に上がらないまま、アジアの口腔外科医は口腔がん患者の苦しみから目を背けている。アジア口腔顎顔面外科学会創設から30余年を経てもなおその主導権を維持している日本口腔外科学会の責任は重大である。創設者の一人としてアジアの口腔顎顔面外科医は南アジアの口腔がんを共通の課題として取り組もうではないかと講演した。具体的には前世紀末に頻り

に行われていた国際交流を復活して **Oral Science+Technique** を向上させようではないかと呼び掛けた。

受章されながらこのようなやや逆説的な講演したにも関わらず、受賞後多数の AOMSI 会員が駆け寄せてくれて思いがけない賛辞と握手攻めに会った。その瞬間に SARS - COV - 2 インド株 に感染したようで、11/26 早朝、ハイデラバードにて 39.0° C の高熱と激しい咽頭痛に襲われたが、予定通り講演+討論して、ニューデリーに戻り、帰国してそのままわが南東北病院に収容された時にも高熱は稽留していた。幸い感染は胸部にまで届いておらず 2 日間で解熱し、症状も消え、早期に退院できた。この 3 年間感染対策、特に口が最大の感染の交差点であることにより「個人防疫」を唱えて来たのに自らが感染してしまって面目ない次第である。

■ご略歴

- 1965 東京医科歯科大学歯学部卒業、同大学院（口腔外科専攻）
- 1967～9 スイス・バーゼル大学医学部顎顔面外科学留学
- 1978～08 鶴見大学第一口腔外科教授
アジア口腔顎顔面外科学会創設、General Secretary に就任
- ～07 鶴見大学歯学部附属病院長
- 1999～07 日本口腔外科学会 理事長
- 2005～08 日本学術会議 会員、初代歯学委員長
- 2007 鶴見大学歯学部長、08 同学長補佐
- 2007～18 日本顎顔面インプラント学会 理事長
総合南東北病院 口腔がん治療センター長、顎顔面インプラント研究所長

- 2013 同 BNCT 研究センター長、総長主席補佐監、国際部長

教育講演

歯性炎症により発症した耳鼻咽喉科疾患の臨床

相馬 啓子

松本歯科大学病院 耳鼻いんこう科 教授



耳鼻咽喉科領域は、歯科領域と解剖学的に重なる部分が少なくなく、密接な関係にある。両者の炎症は互いの器官に影響を及ぼすため、歯科で行う処置によって、耳鼻科的な疾患が誘発される場合がある。今回は実際に経験した臨床症例をいくつかあげて、歯科ではどのような点に注意すべきか、また耳鼻科ではどのように対応しているのかを述べる。

歯性上顎洞炎は、上顎歯根部の炎症が上顎洞に波及して生じる上顎洞炎である。上顎歯根と上顎洞底の距離が近い場合に生じやすい。原因による分類では、齲歯、不完全な根幹治療、歯根嚢胞、抜歯後感染、歯科異物、インプラント感染などがある。歯性上顎洞炎と原因歯に対する取扱いについては統一された見解はない。マクロライド少量長期療法などの保存的療法、内視鏡下鼻副鼻腔手術（ESS）などの外科的手術、原因歯の抜歯は絶対適応か。保存的治療が無効だった場合、抜歯とESSのどちらの外科的治療を優先する方が、患者の不利益が少ないか。歯科と耳鼻咽喉科による医療連携が必要となる。実際には症例ごとに様々な経過をとり、今のところはっきりした正解は言えないが、私なりの見解を述べたい。また当院では、口腔外科と耳鼻科が合同でいくつかの手術を行う機会があった。埋没歯、薬剤関連性顎骨壊死、歯根性歯周炎などが原因で発症した副鼻腔炎の合同手術を提示する。

扁桃周囲膿瘍は、扁桃周囲間隙に感染性膿瘍を形成する疾患で、耳鼻咽喉科では時々扱う疾患である。急性扁桃炎に続発して発症するものが大部分であるが、まれに歯性感染から波及するものがある。膿瘍になった場合には、抗菌剤投与だけでは改善せず、穿刺または切開による排膿を要することがある。適切な治療を行わないと重篤な経過をとるので注意を要する。

■ ご略歴

<略歴>

1985年 岐阜大学医学部卒業

1985年 慶應義塾大学医学部 耳鼻咽喉科学教室入局

その後、けいゆう病院（横浜）科長、日本鋼管病院 部長、川崎市立川崎病院 部長などの病院勤務

2016年4月～ 松本歯科大学 歯学部 耳鼻咽喉科学 教授

慶應義塾大学医学部非常勤講師

<学位>

1995年 博士（医学）慶應義塾大学

<専門医など>

日本耳鼻咽喉科学会認定専門医・指導医

日本気管食道科学会専門医

めまい相談医

補聴器相談医

特別講演①

診療における放射線安全利用のために

田口 明

松本歯科大学 歯科放射線学講座 教授



東日本大震災に伴う福島第一原子力発電所事故の際、リスクコミュニケーションにおける医師の混乱が生じたことから、日本学術会議は2014年に、医学教育での放射線健康リスク教育の必須化を提言し、放射線リスク教育が新設・開始された。しかしながら指導医や看護師は放射線リスク教育を保証されていなかったため、2017年に日本学術会議は、医療被ばくに関する機関内講習会を義務化し、医療従事者の再教育と知識の更新を図ることを提言した。厚生労働省令は2019年に、医療機関における診療用放射線に係る安全管理のための体制の確保に係る措置を規定した。エックス線装置等を備える全ての病院・診療所は、「医療放射線安全管理責任者」を配置すること、医療放射線の安全管理のための指針を策定すること、医療放射線に係る安全管理のための職員研修の実施、さらに保有する装置（CT等）による医療被ばくの線量管理・線量記録を2020年4月までに準備することが決まった。現在全医療機関において職員研修の実施が年1回義務化されている。研修内容としては、医療被ばくの基本的な考え方、放射線診療の正当化、医療被ばくの防護の最適化、放射線の過剰被ばくその他の放射線診療に関する事例発生時の対応および患者への情報提供である。放射線診療で問題となるのは、利益と不利益を勘案する正当化および診療に必要な画質下における被ばく線量の低下（医療被ばくの最適化）である。日本はCT等の診療放射線機器が世界に比して極めて多いことから、自ずと患者被ばく線量が増大するが、国民線量を今後抑える必要

がある。特に放射線感受性の高い小児では重要であり、小児にむやみに撮影を行うべきではない。近年の研究では、撮影により悪性腫瘍発生リスクは上昇しているため、正当化および最適化を十分に考慮して放射線診療を安全に行われなければならない。

■ ご略歴

- 1988/03/25 広島大学歯学部卒業
- 1992/03/25 広島大学大学院歯学研究科博士課程修了
- 1992/04/01 広島大学歯学部助手（歯科放射線学講座）
- 1995/04/01 広島大学病院講師（歯科放射線科）（2006年まで）
- 1996/10/01 ワシントン大学口腔内科学講座客員教授（1997年まで）
- 2006/10/16 広島大学病院診療准教授（歯科放射線科）
- 2008/06/01 松本歯科大学歯学部歯科放射線学講座教授（現在に至る）
- 2013/04/01 東京大学医科学研究所非常勤講師（2017年まで）
- 2017/03/01 香港大学歯学部名誉教授（現在に至る）
- 2017/04/01 広島大学歯学部非常勤講師（現在に至る）

特別講演②

全身偶発症を防止するための歯科治療時の医療安全管理

澁谷 徹

松本歯科大学病院 歯科麻酔科 教授



歯科治療中には様々な全身偶発症が生じることがある。最も頻度が高いのは、歯科治療に対する不安や恐怖心といった精神的ストレスや強い痛み刺激により発症する血管迷走神経反射で、次いで過換気症候群や局所麻酔薬に添加された血管収縮薬に対する全身反応がみられる。これらの全身偶発症は基礎疾患のない健康な患者においても発症しうるが、重篤化する可能性は少ない。一方、心臓循環器系疾患などの内科的基礎疾患を有する患者では、脳卒中や急性心筋梗塞といった生命に危険がおよぶ全身偶発症が発生する可能性がある。そこで、このような重大な全身偶発症の発生を未然に防止し、また重篤な事態に到らせないようにするためには、患者の全身状態を術前に適切に評価し、必要に応じてバイタルサインを歯科治療中にモニターすることにより、異常を早期に発見して適切な対応を取ることが重要である。

日本は超高齢化社会を迎えており、様々な内科的基礎疾患を有する患者が歯科を受診する機会が増えている。歯科治療時に循環動態や呼吸状態の変化をきたす可能性がある場合には、患者監視装置を用いた血圧、脈拍数、SpO₂（末梢動脈血酸素飽和度）などのモニターが有用となる。本講演では、術前の全身状態評価におけるポイント、自動血圧計やパルスオキシメータを使用する際の注意点、モニタリング値の評価と異常値への対応につき解説する。

■ご略歴

- 1983年3月 大阪大学歯学部卒業
 - 1983年4月 大阪大学歯学部歯科麻酔学講座研究生
 - 1983年10月 大阪大学歯学部附属病院医員（歯科麻酔科）
 - 1988年1月 大阪大学助手（歯科麻酔科）
 - 1989年7月 岩手医科大学歯学部助手（歯科麻酔学講座）
 - 1991年1月 大阪大学講師（歯科麻酔科）
 - 1995年1月 大阪大学講師（歯科麻酔学講座）
 - 1998年2月 松本歯科大学助教授（歯科麻酔学講座）
 - 2006年12月 松本歯科大学教授（歯科麻酔学講座）
 - 2019年4月 松本歯科大学教授（歯科麻酔科・歯科麻酔学講座兼任）
- 現在に至る

日本歯科麻酔学会歯科麻酔指導医、歯科麻酔専門医、認定医

特別講演③

歯周病と全身疾患の関連性から安全歯科
医療を考える

吉成 伸夫

松本歯科大学 歯科保存学講座（歯周） 教授



現在、我が国の歯科医療は、治療から予防と管理、さらに口腔健康から全身健康へ変化し、基礎疾患のない患者の歯・歯周組織を対象とした健常者型治療から、リスク・難易度の増加した高齢者型治療へと変化することが求められています。

このような状況の中で、歯周病は口腔局所の感染症としてだけでなく、全身に対する歯周ポケットからの持続的な慢性炎症性疾患としても捉えられます。1986年にOffenbacherが歯周病と全身との因果関係、関連を探求する学際領域を「Periodontal medicine」と名付けて以来、歯周病と全身との関係に関する多くの研究が行われています。歯周病と糖尿病，心臓血管疾患，早産・低出生体重児をはじめ，関節リウマチ，非アルコール性肝臓疾患，アルツハイマー型認知症，慢性腎臓病，炎症性腸疾患，ある種の悪性腫瘍や自己免疫疾患についても関連が示唆され，今や歯周病は50以上の全身疾患と関連していると報告されています。

今後，これらの関連を「安全歯科医療の確立」という実益へと社会実装するために，国民へのアピールや医科歯科連携が必要です。ただ，国民に歯周病と全身との関連性はまだ周知されておらず，アピールと同時に，歯周病の予防効果を併せ持つ歯科健診が非常に重要です。

そこで，政府の「骨太の方針2022」に盛り込まれた「国民皆歯科健診の具体的検討」に期待が持てます。国民皆歯科健診とは，「すべての世代の国民が生涯にわたり歯科検診を受けられる制度」であり，この新制度が導入されると，口腔の健康増進を通じた全身疾患の予防ができ，健康寿命延

伸と医療費削減が予想されます。

本講演では、歯周病と全身疾患の関連性に関する研究成果を俯瞰し、歯周病と関連する全身疾患のエビデンスレベルを整理、この分野で安全歯科医療の確立を推進する方略について私見を交えてお話しさせていただきます。

■ ご略歴

- 1986年 愛知学院大学歯学部卒業
- 1990年 愛知学院大学歯学部助手（歯科保存学第三講座，歯周病科）
- 1995年 愛知学院大学歯学部講師（歯科保存学第三講座，歯周病科）
- 2001-02年 ノースカロライナ大学チャペルヒル校 口腔と全身疾患センター客員研究員
- 2006年 松本歯科大学教授（歯科保存学第1講座，歯周病科）
- 2010-12年 松本歯科大学副学長
- 2012-15年 松本歯科大学病院副院長
- 2014年 松本歯科大学歯科保存学講座（歯周）教授（講座統合に伴い名称変更）
- 2015-16年 松本歯科大学病院歯科副院長
- 2021-23年 日本レーザー歯学会理事長

【所属】

- 日本歯周病学会・常任理事・専門医・指導医
- 日本歯科保存学会・理事・専門医・指導医
- 日本レーザー歯学会・理事・専門医・指導医

- 日本老年歯科医学会・評議員・専門医・指導医

特別講演④

長野県歯科医師会の医療安全への
取り組み

清水 武

長野県歯科医師会 大門歯科クリニック



長野県歯科医師会会員は、県民に良質で安心・安全な歯科医療を提供することを通じて、地域社会に貢献すること目的として日々研鑽を積んでいます。長野県歯科医師会（県歯）では上記の目的を達成するために会員に医療安全に関する様々な研修会の開催や情報提供を行っています。本講演では、県歯の医療安全への取り組みについてその概要を報告するとともに、一般歯科診療所で生じた医慮事故の具体例、相談事例等を供覧する予定です。また、歯・口腔と全身の健康の関連がクローズアップされてきていることから、医科歯科連携・病診連携そして多職種連携事業等についてお話する予定です。

県歯は、医療安全への取り組みとして主に歯科医療安全対策、院内感染対策を所管する医療管理部と、医療事故・医療紛争に対応する医療安全対策委員会を会内に設置し、医療安全対策の推進、徹底に努めています。医療管理部では平成19年の改正医療法に基づき、全会員診療所に「医療安全管理マニュアル」を配布し、法令を遵守した活用法を示し、主に有病者・高齢者患者に対する歯科治療、偶発症の対応等の医療安全研修会や院内感染対策、昨今では、新型コロナウイルス感染症の知見、対応を含めた講演会を企画しました。また、長野県と協力し一般歯科診療所でHIV陽性者が安心して歯科診療を受けられるように「HIV感染者等歯科医療ネットワークの構築」を行って参りました。

医療安全対策委員会では日々寄せられる歯科治療に対する疑問、不安に電話相談等で対応し、トラブルを未然に防ぐ環境づくりに尽力しています。また、様々なインシデント事例、不幸にも起きてしまった医療事故等に対応するとともに、その再発防止策を講じております。

その他、周術期口腔機能管理を中心とした長野県がん診療拠点病院との連携体制の構築等についてお話する予定です。

■ご略歴

- 1990年 新潟大学歯学部卒業
新潟大学第一口腔外科（研修）
- 1991年～ 長野赤十字病院口腔外科入局
- 2018年～2022年 長野赤十字病院口腔外科部長
- 2022年～ 長野赤十字病院口腔外科（非常勤）
- 2023年～ 長野県歯科医師会 医療安全対策委員会所属

特別講演⑤

歯科衛生士が行う院内感染対策

吉村 理恵

新百合ヶ丘総合病院 歯科衛生士



歯科医療では、歯の切削、歯石除去、義歯調整など周囲の環境が汚染される可能性の高い処置が多い。そのような環境にあることより交差感染のリスクが高く、患者やスタッフの安全を確保し、感染拡大を防ぐために最善の感染対策を実践する必要がある。1985年米国疾病対策予防センター（CDC）にてユニバーサルプレコーション（普遍的予防策）が、その後の1996年にはスタンダードプレコーション（標準予防策）が提唱され、全世界の医療現場において実践されている。一方、2019年12月中国の武漢市から新型コロナウイルス感染症（COVID-19）が報告され、2020年1月15日には神奈川県においてCOVID-19患者が国内で初めて報告された。これを契機に、歯科医療現場においても院内感染対策を見直す大きな動きとなった。しかし、歯科医療における院内感染対策には未だ課題は多い。歯科衛生士は感染症や感染対策に関する正確な知識を身につけ、安全、安心な歯科医療環境の確保に貢献することが極めて重要である。この目的のために、定期的な学修機会や適切な教育資源の確保、環境づくりなどの強化が必要である。今回、当院における環境感染対策の取り組みを紹介しながら、歯科衛生士が今後積極的に果たしていかなければならないと考えられる役割について示し、考察する。

■ご略歴

学歴

1993年3月 横浜歯科技術専門学校 歯科衛生士科卒業
2019年3月 武蔵野大学通信教育部 人間科学部人間科学科卒業
2022年3月 独立行政法人学位授与機構 口腔保健学 学士取得

職歴

1993年4月 玉川高島屋内 玉川デンタルクリニック入職
2003年8月 早乙女歯科医院入職
2015年1月 新百合ヶ丘総合病院 歯科口腔外科入職 現在に至る

認定資格

日本歯科衛生士会

2016年 医科歯科連携・口腔機能管理 認定歯科衛生士
2017年 摂食嚥下リハビリテーション 認定歯科衛生士
2020年 歯科衛生士研修指導者・臨床実地指導者 認定歯科衛生士
2022年 歯科医療安全管理 認定歯科衛生士

ジャパンオーラルヘルス学会

2016年 認定歯科衛生士（コーディネーター）

日本有病者歯科医療学会

2019年 認定歯科衛生士

日本 ACLS 協会

2019年 ACLS プロバイダーコース修了

日本心理学会

2020年 認定心理士

所属学会

日本歯科衛生士会

日本有病者歯科医学会

ジャパンオーラルヘルス学会

日本口腔ケア学会

日本がん口腔支持療法学会

国際歯科医療安全機構

特別講演⑥

～医療安全としての感染管理活動～
コロナ禍を通じて見えてきた平素からの
感染対策の重要性

横山由香里

長野県立こども病院 感染管理室 看護師



2020年初頭から世界に拡大した新型コロナウイルス感染症（以下、COVID-19）は、社会全体に大きな影響を及ぼした。特に多くの医療・福祉施設では COVID-19 集団感染の発生や感染職員の多数欠勤、さらに振興感染症への恐怖心からの社会の過剰な反応など様々な要因により通常業務に負荷が生じ、安全な医療福祉提供体制は大きく脅かされた。患者や施設利用者にとっても、生活の制限や家族との面会の遮断など過大な負担を強いられた約3年間であった。

小児専門病院である当院は COVID-19 流行期間中、①職員の基本的な感染対策の遵守率を向上させることに注力したことと、②患者が家族や大切な人と会う権利を守るために面会禁止をせず、来院者への感染対策指導を強化する対応を実践した。結果、当院では大規模クラスターの発生はなく、常に病院の機能を維持することができた。

また、当院感染制御室では、地域の様々な医療・福祉施設にて COVID-19 対策の支援をさせていただく機会があったのだが、この中で改めて認知したことは、感染対策の基本である「標準予防策」を知らない、知っていても実践できないという状況の多さであった。

本発表では、COVID-19 流行時における当院の感染管理活動を紹介し、その対応の中から改めて確認した、平素からの感染対策の重要性について述べる。

■ご略歴

参考文献

1987年 諏訪赤十字病院看護専門学校卒業 看護師免許取得

1993年 長野県立こども病院 開院時より勤務 ～現在

2012年 長野県看護大学看護実践国際研究センター 認定看護師教育課程 感染管理分野 修了

同年 感染管理認定看護師の資格取得

2018年～ 感染制御室 専従看護師

ランチオンセミナー

社会的背景を考慮したインプラント
治療のリスクマネージメント

矢島 安朝

松本歯科大学銀座8丁目クリニック院長 教授



本邦のインプラント治療には「インプラント禍」と呼ばれる時期が存在した。2011年12月の国民生活センターの報道発表（歯科インプラント治療に係る問題 身体的トラブルを中心に）と2012年1月のクローズアップ現代（NHK）放映（歯科インプラント トラブル急増の理由）を起点とした「インプラント禍」は、その後約8年間継続し、国内インプラント症例数の著しい減少を招いた。

当時高梨滋雄弁護士は、これらのインプラント治療に対する批判の原因を大きく以下のように分類した。

1. 歯科医師過剰、需給バランスの悪化（行政の無策）
2. 標準的治療方法の普及なし（自己流の根拠に乏しい施術あり）
3. 卒前・卒後教育の不足（メーカー主導の講習会等）
4. 患者のリテラシー不足、安さ早さにつられる患者自身の問題（安価で質の高い医療など受けられるはずがない）

上記をもとに、口腔インプラント学会、顎顔面インプラント学会がインプラントの医療安全にかかわる様々な活動を実施したことにより、2019年の国民生活センターの報告では、インプラント治療に対する論調は大きく変化し、8年間の両学会の努力を褒めたたえ、事故件数の減少や広告可能な専門医の取得について言及し、最終的には両学会に報告文章の添削まで許可した。しかし、患者からの投書部分だけは、決して修正を許さなか

った。これらの投書をまとめると以下の3点に絞られる。恐らくこの3点が社会から指摘されている現時点でのインプラント治療の問題点なのであろう。

- ・ 重篤な医療事故との認識がない
- ・ インプラント撤去基準がない
- ・ 全身状態の把握ができていない

本講演ではこれらの指摘に対してどのような対応が、インプラント治療のリスクマネジメントとして望まれるのかを先生方と一緒に考えてみたい。

■ ご略歴

1980年 東京歯科大学卒業
1985年 東京歯科大学大学院歯学研究科（口腔外科学専攻）修了
1985年 東京歯科大学口腔外科学第一講座 助手
1990年 東京歯科大学口腔外科学第一講座 講師
1995年 ドイツ連邦共和国 Hannover 医科大学 口腔顎顔面外科学教室留学（1997年）
2004年 東京歯科大学千葉病院口腔インプラント科部長
2006年 東京歯科大学千葉病院口腔インプラント科教授
2007年 東京歯科大学口腔インプラント学研究室主任教授
2009年 東京歯科大学口腔インプラント学講座主任教授（講座昇格に伴い名称変更）
2013年 東京歯科大学 水道橋病院 病院長
2019年 東京歯科大学大学院歯学研究科 研究科長
2021年 東京歯科大学名誉教授
2021年 松本歯科大学口腔インプラントセンター教授、松本歯科大学病院長
2023年 松本歯科大学 銀座8丁目クリニック 院長

以上

資格

- ・ (公社) 日本顎顔面インプラント学会 指導医、専門医
- ・ (公社) 日本口腔インプラント学会 指導医、専門医
- ・ (公社) 日本口腔外科学会 指導医、専門医

第8回学術大会・総会

一般社団法人国際歯科医療安全機構について

■発足のきっかけ

第3回閣僚級世界患者安全サミットが2018年4月、東京で開催されました。



Patient Safety Global Ministerial Summit 2018

Date: April 13(Fri.)-14(Sat.), 2018 **Venue:** GRAND HYATT TOKYO

厚生労働省は、平成30年4月13日（金）、14日（土）にグランドハイアット東京にて第3回閣僚級世界患者安全サミットを開催しました。

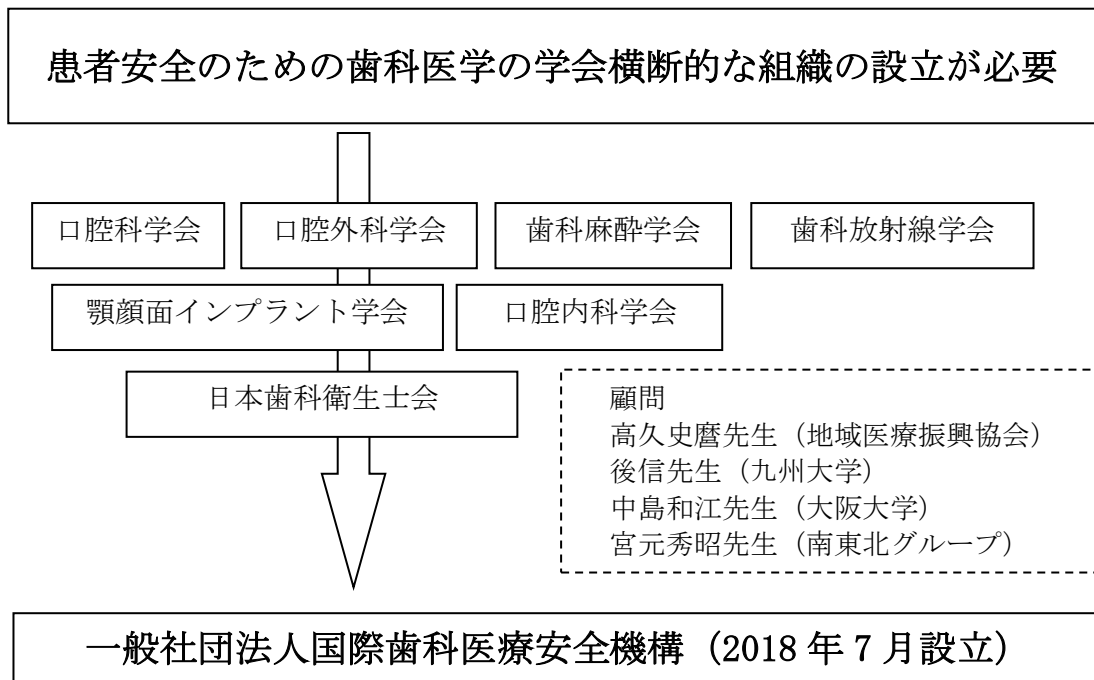
閣僚級世界患者安全サミットは、各国や国際機関のリーダーに患者安全の重要性を浸透させることを目的として2016年3月にイギリスのロンドンで初めて開催され、ドイツのボンで2回目の開催、そして第3回はアジアで初めて日本で開催されました。2日間で44カ国の代表団、国際機関等また座長や講演者、一般参加者等約500名が参加し、うち18カ国からは閣僚が参加しました。

閣僚級会合では、患者安全の約20年の歴史と3回に渡る患者安全サミットの成果を踏まえ、地域レベル、世界レベルでのリーダーシップにより2030年までに世界中の誰でもどこでも医療制度を利用する全ての患者と人々に対し、避けられる全ての有害事象やリスクを低減することを目指し、患者安全の向上のためのグローバルな行動を呼びかけた「東京宣言」をとりまとめました。

(厚生労働省ホームページより転載)

(この会議に参加された瀬戸理事長からの報告) この会議には44カ国の保健関連閣僚を始め、世界各国から医師、看護師、リハビリ士、介護士など職域を越えての参加があったものの、「世界の歯科」からの報告はなく、参加者も他に誰もいないことに気づき、世界の歯科医療が医療の中から孤立している現実を実感しました。

■機構の設立



■設立時役員

理事長	瀬戸 皖一	国際医療財団 理事長	総合南東北病院 口腔口腔外科
専務理事	嶋田 淳	明海大学歯学部	病態診断治療学講座 口腔顎顔面外科学 I 分野 教授
常任理事	瀬尾 憲司	新潟大学大学院医歯学総合研究科	口腔生命科学専攻 顎顔面再建学講座 歯科麻酔学分野 教授
	福田 仁一	大分歯科専門学校 校長	九州歯科大学 名誉教授
	栗田 賢一	愛知学院大学歯学部	顎口腔外科学講座 教授
理事	浅海 淳一	岡山大学歯学部	歯科放射線・口腔診断科 教授
(五十音)	片倉 朗	東京歯科大学	口腔病態外科学講座 教授
	金子 明寛	東海大学医学部附属病院	歯科口腔外科 教授
	金田 隆	日本大学松戸歯学部	放射線学講座 教授
	古郷 幹彦	大阪大学大学院	歯学研究科 口腔外科学第一教室 教授
	新保 悟	医療法人社団 創新会	理事長
	高橋 哲	東北大学大学院歯学研究科・歯学部	顎顔面・口腔外科学分野 教授
	武井 典子	日本歯科衛生士会	会長
	丹沢 秀樹	千葉大学大学院医学研究院	口腔科学講座 教授
	鄭 漢忠	北海道大学病院	歯学研究院 口腔医学部門 口腔病態学分野 教授
	中村 誠司	九州大学大学院歯学研究院	口腔顎顔面病態学講座 教授
	野口 誠	富山大学附属病院	顎口腔外科・特殊歯科 教授
	星 和人	東京大学大学院医学系研究科	外科学専攻 感覚・運動機能医学講座 口腔顎顔面外科学 教授
	宮脇 卓也	岡山大学歯学部	歯科麻酔科 教授
	矢郷 香	国際医療福祉大学 三田病院	歯科口腔外科 部長 医学部准教授
	渡邊 文彦	日本歯科大新潟生命歯学部	歯科補綴学第2講座 教授
監事	式守 道夫	北陸中央病院	歯科口腔外科 部長

第8回学術大会・総会

■実施した学術大会及び研修会（施設基準における歯初診・外来環研修を実施）

<学術大会>

- 2018年6月2日(土) 東京(第1回学術大会)
一橋大学 一橋講堂 中会議場1・2 (学術総合センター2階)
- 2019年6月15日(土) 東京(第2回学術大会)
東京大学 本郷キャンパス 医学部教育研究棟 14階 鉄門記念講堂
- 2021年5月30日(日) 岡山(第3回学術大会)
WEB開催 (Live配信)
- 2021年11月23日(火・祝) 東北(第4回学術大会)
WEB開催 (Live配信)
- 2022年6月5日(日) 熊本(第5回学術大会)
WEB開催 (Live配信)
- 2022年12月4日(日) 新潟(第6回学術大会)
WEB開催 (Live配信)
- 2023年6月4日(日) 松戸(第7回学術大会)
ハイブリッド開催

<学術研修会>

- 2018年7月29日(日) 東京(学術研修会)
東京大学 本郷キャンパス 医学部教育研究棟 14階 鉄門記念講堂
- 2018年10月14日(日) 福岡(学術研修会)
電気ビル本館カンファレンス 地下2階・大会議室 (8号会議室)
- 2018年8月26日(日) 福島(学術研修会)
(一財)脳神経疾患研究所附属総合南東北病院 北棟1階 NABE ホール
- 2018年9月15日(土) 東京(学術研修会)
東邦大学 大森医療センター 5号館 地下1F 臨床講堂
- 2018年9月16日(日) 神奈川(学術研修会)
神奈川県歯科医師会館
- 2018年9月17日(月) 兵庫(学術研修会)
兵庫医科大学 教育研究棟
- 2018年11月25日(日) 岡山(学術研修会)
岡山大学鹿田キャンパス (Jホール)
- 2019年2月10日(日) 東京(学術研修会)
昭和大学歯科病院 6階臨床講堂
- 2019年2月24日(日) 宮崎(学術研修会)
宮崎県歯科医師会館 4階講堂
- 2019年4月14日(日) 福岡(学術研修会)
九州大学医学部 百年講堂 中ホール
- 2019年6月30日(日) 山口(学術研修会)
山口県歯科医師会館
- 2019年10月19日(土) 東京(学術研修会)
東邦大学医療センター大森病院 5号館地下1階「臨床講堂」
- 2020年2月9日(日) 香川(学術研修会)
香川県歯科医療専門学校 7階「8020ホール」
- 2020年2月16日(日) 奈良(学術研修会)
奈良県歯科医師会館 地階 講堂
- 2021年1月17日(日) 名古屋(学術研修会)
WEB開催 (Live配信)

■現役員

理事長	瀬戸 皖一	国際医療財団 会長 総合南東北病院口腔口腔外科
専務理事	嶋田 淳	明海大学歯学部 病態診断治療学講座 口腔顎顔面外科学 I 分野
常務理事	瀬尾 憲司	新潟大学大学院医歯学総合研究科 口腔生命科学専攻 顎顔面再建学講座 歯科麻酔学分野
常務理事	古郷 幹彦	大阪大学大学院歯学研究科 顎口腔病因病態制御学講座（口腔外科学第一教室）
常務理事	伊藤 隆利	医療法人伊東会 伊東歯科口腔病院
理事	福田 仁一	大分歯科専門学校 校長 九州歯科大学 名誉教授
理事	宮脇 卓也	岡山大学歯学部 歯科麻酔科
理事	浅海 淳一	岡山大学学術研究院医歯薬学域 歯科放射線学分野
理事	金田 隆	日本大学松戸歯学部 放射線学講座
理事	高橋 哲	南東北福島病院口腔外科
理事	中村 誠司	九州大学大学院歯学研究院 口腔顎顔面病態学 顎顔面腫瘍制御学分野
理事	渡邊 文彦	日本歯科大新潟生命歯学部 歯科補綴学第2講座 教授
理事	矢郷 香	国際医療福祉大学 三田病院 歯科口腔外科
理事	片倉 朗	東京歯科大学 口腔病態外科学講座
理事	星 和人	東京大学大学院医学系研究科 外科学専攻 感覚・運動機能医学講座 口腔顎顔面外科学
理事	新保 悟	医療法人社団創新会 大森・東京歯科口腔外科
理事	関谷 秀樹	東邦大学医学部口腔外科
理事	岸本 裕充	兵庫医科大学 歯科口腔外科学講座
理事	池邊 哲郎	福岡歯科大学 口腔外科学分野
理事	半田裕二郎	一般財団法人 脳神経疾患研究所附属 総合南東北病院 国際医療部
理事	喜久田利弘	新百合ヶ丘総合病院 歯科口腔外科
理事	佐々木 朗	倉敷中央病院歯科
監事	式守 道夫	公立学校共済組合北陸中央病院 歯科口腔外科

国際歯科医療安全機構での取り組みを日本学術会議で発表しました

資料・動画がアーカイブされていますので、ぜひご活用ください。

2023/4/4 日本学術会議 25期・23回 第二部大規模感染症予防・制圧体制検討分科会

<https://www.scj.go.jp/ja/member/iinkai/2bu/giji-2kansensyou.html>

<p>口腔の専門家からみた大規模感染症拡大防止策</p> <p style="text-align: right;">瀬戸皖一先生</p> <p>総合南東北病院口腔がん治療センター長・口腔外科部長 (公財)国際医療財団会長 (一社)国際歯科医療安全機構理事長</p>	
<p>生活習慣改善による感染症の予防</p> <p style="text-align: right;">瀬島俊介先生</p> <p>(公財)国際医療財団理事長 (認定 NPO 法人)バイオメディカルサイエンス研究会理事長</p>	
<p>SARS-CoV-2 の口腔からの感染メカニズムと 今後の新興感染症に対する感染対策について</p> <p style="text-align: right;">阪井丘芳先生</p> <p>大阪大学大学院歯学研究科教授</p>	
<p>COVID-19 と歯科医療現場における感染予防対策</p> <p style="text-align: right;">米山武義先生</p> <p>米山歯科クリニック院長 (NPO 法人)POIC 研究会会長</p>	

【国際歯科医療安全機構「入会申し込みフォーム」 (FAX 申し込み用)

※ 事務局にて受付後、メールにて「入会証」をご返信いたします。(メールでのご返信になります、必ずご確認ください。)

※ 入会証は、プリントアウトして研修会当日、受付にご提出ください。

※ 当機構の入会費は、研修会当日受付にて申し受けます。

国際歯科医療安全機構・入会申込書

ふりがな 氏名			
生年月日 (西暦)	年 月 日	性別	男 ・ 女
住所・郵便番号	〒 ー		
電話	()	FAX	()
メールアドレス	@ ※入会証は、メールでのご返信になりますので、正確にご記入ください。		
職種	<input type="checkbox"/> 歯科医師・医師、それに準じる職種 ●年会費 8,000 円 <input type="checkbox"/> 歯科衛生士・歯科技工士・看護師、それに準じる職種 ●年会費 2,000 円 <input type="checkbox"/> 学生 ●年会費 2,000 円 ※年会費は、2024 年 6 月 1 日までの会費です。		
所属・勤務先 (学校)			
勤務先電話	()	勤務先 FAX	()

《送信先》

FAX: 03-6459-4677

メール: gpdps.info@gmail.com

※ お申し込み後、事務局より、受付確認後「入会証」のご返信までお時間をいただきます。
ご返信の無い場合事務局まで、ご連絡ください。

協賛一覧

株式会社モレーンコーポレーション

株式会社モリタ

ジンヴィ・ジャパン合同会社

医療法人信州口腔外科インプラントセンター

ベーガン通商株式会社

最短 **45** 分間で洗淨・熱水消毒・乾燥

ISO15883 準拠

40 通りのカスタマイズプログラム

ウォッシャーディスインフェクター

ARNO

- アルノ -

医療機器クラス I (器具除染用洗淨器)

種類豊富なアタッチメントで幅広い歯科器具に対応

コンパクトながら大容量の処理能力

(セット例：ハンドピース 10 本、吸引管 10 本、基本セット・トレー 8 人分)

ビルトイン・テーブルトップなど

クリニックのスペースに応じて柔軟な配置が可能

HEPA フィルター搭載

電源 単相 200V 20A

排水事前冷却機能搭載

本体定価 ¥1,904,000- (税抜)



販売名 ウォッシャーディスインフェクター アルノ 一次側設備
 クラス分類 医療機器クラス I (器具除染用洗淨器)
 医療機器届出番号 13B2X10166000017
 本体重量 65kg
 外形寸法 W595mm - D520mm - H600mm
 (扉開時最大：D855mm)
 洗淨槽 W428mm - D415mm - H370mm

電源 200V 単相・20A
 給水・給湯
 排水 VP40A (排水事前冷却機能あり)
 RO 接続可 (オプション)

<販売元>

株式会社モレーンコーポレーション
 東京都中野区東中野 5-1-1 ユニゾンモール 3F

TEL : 03-5338-3911
 Mail : dental@moraine.co.jp
 HP : <https://www.moraine.co.jp/>



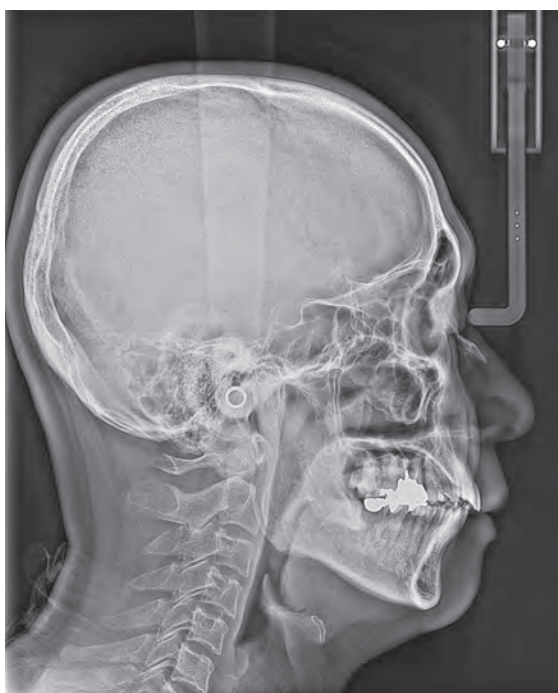
Thinking ahead. Focused on life.

Veraview X800 One-Shot Ceph

New Frontier of the X-ray

All-in-oneタイプのX線診断装置ベラビューX800に、ワンショットセファロ撮影機能を搭載。

頭頂部、後頭部*1まで、頭部のほぼ全体が収まる広い領域を、0.5秒*2のワンショットで撮影。患者さんの動きによるアーチファクトを低減し、鮮明な画像を取得できます。



LA画像 W250 x H300 mm



*1 患者さんの大きさや頭部形状によっては撮影領域に収まらない場合があります。 *2 小児モードでの撮影時 (最短0.3秒まで設定可能)

発売 株式会社 **モリタ** 大阪本社: 大阪府吹田市垂水町3-33-18 〒564-8650 T 06. 6380 2525 東京本社: 東京都台東区上野2-11-15 〒110-8513 T 03. 3834 6161
 お問合せ: お客様相談センター 歯科医療従事者様専用 T 0800. 222 8020 (フリーコール) 製造販売: 株式会社 **モリタ製作所** 京都市伏見区東浜南町680 〒612-8533 T 075. 611 2141
 販売名: ベラビュー X800 標準価格: 12,600,000円~ (消費税別途) 2021年12月21日現在 一般的名称: デジタル式歯科用パノラマ・断層撮影X線診断装置
 機器の分類: 管理医療機器 (クラスII) 特定保守管理医療機器 医療機器承認番号: 228ACBZX00008000
 詳細な製品情報につきましては、こちらを参照ください。 http://www.dental-plaza.com/article/veraview_x800



T3[®] PRO

NEW PRO DESIGN



 **ZimVie**

● 製造販売元

ジンヴィ・ジャパン合同会社

〒162-0845 東京都新宿区市谷本村町1-1 住友市ヶ谷ビル2F

TEL: 0120-318-418 FAX: 0120-314-004

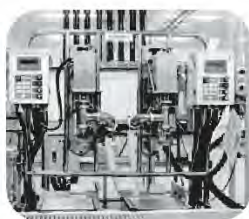


販売名：T3 PRO インプラント 医療機器承認番号：30500BZX00023000

創業42年。ベーガン通商グループは、 日本における発酵乳酸の パイオニアです。

ブレンディックス株式会社は、
ベーガン通商グループの一員として、
発酵乳酸をはじめとするさまざまな製剤の
製造、品質管理、加工を行っています。

■ 2021年春、新工場が竣工いたしました。
今後はさらにお客様にご満足いただける製品とサービス
をご提供できるよう、スタッフ一同全力で取り組みます。



無限に広がる「ご縁」が、私たちの財産です。

著しい変化を続ける現代社会においても
「ご縁」は世界に通じる無限の可能性を秘めた大切な資源です。
「何事も人さまとのご縁と、おかげさま」の思いで
幅広い産業界のニーズに果敢に取り組ませていただくことが
私たちのやりがいであり、企業としての生きがいです。
日々、新しいご縁の広がりに感謝いたします。

代表取締役社長 丸山晶弘

■発酵醸造学が専門の私とベーガン通商社とは、40年以上「産学連携」のおつきあいです。丸山晶弘社長と乳酸の抗菌作用について代表的被検菌を使って濃度やpHの抗菌性への影響を調べ共同研究論文としたことは、今も同社の活動の基になっていると思います。現在も新しい知見や適用法の開発を石川県立大学(小柳研究室)と共同研究中であり、今後はコロナウイルスの滅菌や食品の保存料としての乳酸の新展開が期待されます。



熊谷英彦先生
石川県立大学参与
京都大学名誉教授
石川県立大学名誉教授
学士院賞受賞
イグノーベル賞受賞



ベーガン通商株式会社
BOEHGAN CORPORATION

〒113-0034 東京都文京区湯島3-10-6 マザービル5F
TEL 03-5812-3213 (代表) FAX 03-5812-3212



BLENDIX
ブレンディックス株式会社

〒673-1341 兵庫県加東市南山6丁目3番地13
TEL: 0795 -47-0721 FAX: 0795 -47-0794

発酵食文化から生まれた乳酸菌由来の乳酸除菌剤

フィトンラック シリーズ

BD-65

アルコール+発酵乳酸

医薬品や医薬部外品
ではありませんが
消毒用エタノールの
代替品として
手指消毒に使用する
ことが可能です!

安心・安全の 乳酸をプラスした アルコール製剤

2024年6月末までの特別措置のため
特別価格でご提供します
20kg (通常 10,000円)

4,000円 (送料込・税別)



荷姿 1100kg コンテナ

荷姿 5L

荷姿 1L

荷姿 20kg



植物由来の
L型発酵乳酸
生分解性

安定の配合で
除菌力
が決めて!

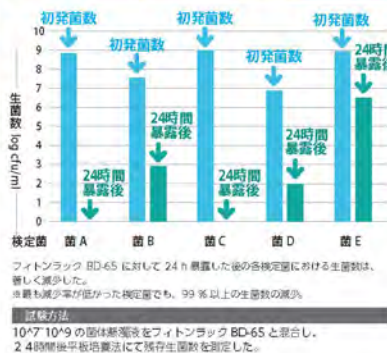
アルコール濃度
65%
アルコールでも
危険物扱いに
なりません

フィトンラックとは

「フィトン」とは植物由来の名称です。フィトンラックは乳酸菌由来の乳酸除菌剤（伝統食品由来の乳酸菌培養上澄み液の製剤）です。

乳酸は人体や動物の体内にも存在する物質であり、様々な食品、例えば穀物、日本酒、味噌などの伝統食品やヨーグルトなどの乳製品にも含まれている有用な食品添加物です。さらに、他の有機酸と比べ幅広い種類の細菌に対して増殖を抑える強い抗菌力を持ち、多くの加工食品の日持ち向上にも用いられており、食品保存性向上にも効果があります。

フィトンラック BD-65 抗菌効果



当製品の安全性試験

安全性試験実施 / 一般社団法人日本食品分析センター

■試験結果報告済み試験

- 皮膚一次刺激性試験 (OECD TG 439 (刺激性試験) **結果 / 非刺激性**)
 - 眼刺激性試験 OECD TG 492 (刺激性試験) **結果 / 非刺激性**
 - 皮膚一次刺激性試験 (OECD TG 431 (飼食性試験) **結果 / 非飼食性**)
 - 眼刺激性試験 (OECD TG 491 (飼食性試験) **結果 / 非飼食性**)
 - 急性経口毒性試験 (限度試験) **結果 / 異常なし**
 - 皮膚感作性試験 (アレルギー試験) **結果 / 異常なし**
- 上記の試験結果後にヒトパッチ試験、呼吸器試験実施予定です

製品名称 フィトンラック BD-65

荷姿 供給先包装形態

※ご相談ください。

使用方法 原液のままご使用ください。

効果 菌除菌

使用期限 2年

使用上のご注意

塩素系洗剤と一緒に
使用しないでください。



第8回国際歯科医療安全機構総会・学術大会

「地域医療から取り組む医療安全の発展を目指して」

会期：2024年1月21日(日) 9:30～17:00

会場：松本歯科大学 図書館2F学生ホール(ハイブリッド開催)

〒399-0781 塩尻市広丘郷原1780

大会長：栗原 祐史(松本歯科大学 歯学部 口腔顎顔面外科学講座 教授)

<プログラム>

大会長講演(9:40-10:10)

「松本歯科大学病院が取り組む感染制御の現状と対策」
栗原 祐史(松本歯科大学 口腔顎顔面外科学講座 教授)

特別講演①(10:10-10:40)

「診療における放射線安全利用のために」
田口 明(松本歯科大学 歯科放射線学講座 教授)

特別講演②(10:45-11:15)

「全身偶発症を防止するための歯科治療時の医療安全管理」
澁谷 徹(松本歯科大学病院 歯科麻酔科 教授)

特別講演③(11:15-11:45)

「歯周病と全身疾患の関連性から安全歯科医療を考える」
吉成 伸夫(松本歯科大学 歯科保存学講座 教授)

ランチョンセミナー(12:00-13:00)

「社会的背景を考慮したインプラント治療のリスクマネジメント」
矢島 安朝(松本歯科大学銀座8丁目クリニック院長 教授)

教育講演(13:15-13:45)

「歯性炎症により発症した耳鼻咽喉科疾患の臨床」
相馬 啓子(松本歯科大学病院 耳鼻いんこう科 教授)

特別講演④(13:45-14:15)

「長野県歯科医師会の医療安全への取り組み」
清水 武(長野県歯科医師会 大門歯科クリニック)

特別講演⑤(14:30-15:00)

「歯科衛生士が行う院内感染対策」
吉村 理恵(新百合ヶ丘総合病院 歯科衛生士)

特別講演⑥(15:00-15:30)

「～医療安全としての感染管理活動～
コロナ禍を通じて見えてきた平素からの感染対策の重要性」
横山由香里(長野県立こども病院 感染管理室 看護師)

企画講演(15:45-16:45)

「アジアの口腔癌撲滅を目指して」
瀬戸 皖一(一般社団法人国際歯科医療安全機構 理事長)

※歯初診・外来環の申請に
該当する研修です



参加費：歯科医師・医師3,000円 歯科衛生士・歯科技工士・看護師1,000円

参加登録期間：2023年3月1日(水)～2024年1月19日(金)(予定)

参加登録方法：機構ホームページ(<https://gsdp.jp>)内
「お申込みフォーム」からお手続きください。

主催：松本歯科大学 歯学部 口腔顎顔面外科学講座

●準備委員長：李 憲起 ●執行役員：北村 豊(松本歯科大学病院 臨床教授)

Tel&Fax: 0263(51)2066(口腔顎顔面外科学講座医局) E-mail: xianqi.li@mdu.ac.jp

